

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 12月 2日

【評価実施概要】

| | |
|-------|---|
| 事業所番号 | 0170503932 |
| 法人名 | (株)ジェイ・ライフ |
| 事業所名 | グループホーム かわしも公園 |
| 所在地 | 札幌市白石区川北2条3丁目7番13号 (電話) 011-873-7007 |

| | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 社団法人 北海道シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年10月25日 | 評価確定日 | 平成21年12月2日 |

【情報提供票より】 (21年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|--------|-------------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 18年 3月 15日 |
| ユニット数 | 2 ユニット |
| 職員数 | 17 人 |
| 利用定員数計 | 18 人 |
| | 常勤16人, 非常勤1人, 常勤換算15.1人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|-------------------|
| 建物構造 | 木造2階建て 造り (準耐火構造) |
| | 2階建ての 1～2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------------------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 39,000～41,000 円 | | |
| その他の経費(月額) | 21,000～36,000 円 | | |
| 敷金 | 有 (39,000～41,000円) 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 (円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 1,200 円 | | |

(4) 利用者の概要 (9月10日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 6 名 | 女性 12 名 |
| 要介護1 | 8 名 | 要介護2 | 2 名 |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 4 名 |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 79.6 歳 | 最低 60 歳 | 最高 91 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------|
| 協力医療機関名 | 桜台江仁会病院 |
|---------|---------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所独自の理念である「地域とのふれあいを大切にしながら、入居者も地域の一員としてその人らしく生活できる」に沿い、地域密着型事業所としての役割を十分に果たしている事業所である。開設4年目を迎えているが、開設以来、地域との交流を図るために事業所側から運営推進会議などを通じて、地域内の安全面などにおける協力を申し出、地域の方々の認知症への理解を深めるための研修会開催などの取組みを行っている。また、事業所を地域交流の場としてボランティアや近所の子供たちにも開放しており、これらの取組が着実に実を結んできている。職員は利用者主体の生活が実現できるよう必要に応じた適切なサポートを行っており、入居者の笑顔やいきいきした様子などから入居者にとっても過ごしやすい事業所であることも確認できた。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>家族の要望であった職員の異動報告は、ホームページ上で行われるようになった。ただし、ホームページを閲覧できない方への情報提供も行っていくことが課題となっている。入居者の方から知り得た情報については、記録へ残し、日常の支援や介護計画に反映させている点は改善が図られている。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>自己評価をサービスの実態を振り返る機会として、前向きに取り組んでいる点は自己評価結果からも窺うことができた。評価結果については、職員会議などで検討を行い、対策を立てて改善に向け取り組んでいる。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、開かれた事業所づくりにつなげるものとして十分にその機能を活かしている。この会議を通じて、町内会、近所から協力を得られるようになった点や地域との連携がより深まった点は評価できる。</p> |
| | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>家族とのコミュニケーションを重視しており、家族の来訪など接点がある時にご意見、要望を聞き出し、それを職員会議で解決に向けて話し合いを行っている。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>地域密着型事業所としての役割を果たすよう、運営推進会議で交流を呼びかけたり、町内会の行事にも積極的に参加するなどの活動を通じ、地域ボランティア、近所の子供などの来訪など地域交流が盛んになってきている。</p> |

2. 評価結果 (詳細)

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | この事業所には、地域とのふれあいを大切にしながら、入居者も地域の一員としてその人らしい生活できるような支援を行うという理念が定められている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念を日常の支援にいかにつなげていくのかについて管理者は常に職員に意識づけるよう働き掛けている。よって、職員ひとりひとりが理念で目指している入居者との信頼関係構築や安心して生活できる場の提供に注力している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 開設4年を迎えるが、これまで積極的に行ってきた町内会行事への参加、子供へのホームの解放など近所つきあいが実を結んでできている。近所からも事業所を地域の一員として認めていただいております。今後もこの良好な関係が続くことを望む。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 理念にも掲げられている通り、自己評価、外部評価をサービスを検証する機会と捉え、明らかになった課題については、どう解決していくのかについて職員間の話し合いを行うなど活用されている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、地域を巻き込みながら協力体制を強化する機会となっている。会議においては、運営状況についての報告の他、ホームが地域のために協力できることを申し出たり、事業所側に対しても緊急時の協力要請があるなど互いにその機能をうまく活用している。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 入居相談など、必要に応じて包括支援センターと随時連携を取っている。ホーム側に相談等がある場合にも、行政側からアドバイスをもらうなどの連携が取れている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 入居者の暮らしぶりについては、ホームページをうまく活用して家族へ報告している。日常生活の様子や行事の様子などは写真を随時ホームページへ掲載しており、家族もその様子をいち早く見ることが出来ている。金銭報告については、毎月、利用明細を送付している。 | ○ | 家族の方のホームページ利用が特定の家族にとどまらないよう、ホームページの活用を周知するとともに、ホームページを閲覧できない家族への配慮も行っていたことを望む。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族側の不満や意見がある場合の対応窓口については、入居時に説明しているが、日常的にも家族とのコミュニケーションを通じて、意見や要望を聞き出す機会を作っている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動があった場合には、支援が断ち切れないうちにケース会議などにおいて、ケース記録の活用しながらスムーズな引き継ぎができるよう努めている。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者は職員に対して支援のプロを目指すよう意識づけさせている。育成については、OJTで実践的に学ばせたり、外部研修への参加させるなど積極的に行っている。本年度は、職員スキルアップのために、近隣グループホームとの合同研修会を実施を行っている。資格取得も推奨しており、資格取得者には手当が支給されるなどの職員の待遇改善にも反映させている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣事業所によりグループホーム合同事業体を立ち上げ、グループホーム間の相互交流による情報交換、職員育成および人材確保に活用している点を評価したい。 | ○ | この合同事業体が地域の認知症ケアの情報発信基地となり、地域住民にとっても相談しやすい専門窓口になるよう地域へさらに働きかけていただくことを期待したい。 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 暮らしの継続が実現できるよう、入居時には本人、家族とのアセスメントにより必要な情報を聞き出し、スムーズに入居できるよう努めている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 事業所では、入居者、職員が共に支え合いながら生活をしている様子が窺えた。職員は入居者の支援を行う立場であるということを理解しており、あくまで入居者主体の事業所である。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者の好みや希望を聞き出すよう、職員は入居者とのコミュニケーションを大事にしている。希望を聞き出せないには、入居者の目線に立って考えてあげている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画に入居者のニーズが反映されるよう、職員は日頃から入居者ニーズの把握、生活面の課題などを記録に残し、介護計画に反映させている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画に基づくケアを行うことを意識づけさせるために、支援経過記録に介護計画に基づく実施状況にアンダーラインを引くなどの工夫を行っている。この支援経過記録や入居者の状態変化を介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 入居者、家族からの要望にはできるだけ応えることを基本にしており、ホームの機能で活用できるものは最大限活用している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者のかかりつけ医とは随時連絡を取り指示を受けている。また、非常勤勤務であるが、看護師もおり、医療支援体制は十分に整っている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 終末期ケアの実績はないが、今後必要になる場合があることに備えて研修会を実施している。 | ○ | 終末期ケアについては、入居者、家族の意向が最優先されるべきであるが、事業所側も方針を共有化するための研修会を継続していただくことを望む。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者への声かけ、トイレ誘導、食べこぼしのサポートなど常にプライバシーに配慮しつつ、入居者を尊重して対応していることが窺えた。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者の気分や意向に合わせ、その日の過ごし方を決めている。外出、外食なども入居者の希望を聞き出し、叶えられるよう対応している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食卓を囲み入居者、職員が会話を楽しみながら食事を取っていた。料理の盛り付けは、食器を含め、見た目も美味しそうに工夫がされていた。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 週2回の入浴が行われるよう、職員は入居者の希望を考慮しながら支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 職員それぞれ担当している入居者の生活歴や好みなどを聞き出し、入居者の意向を踏まえて、できるだけ叶えられるよう支援している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 近所の散歩や庭で畑作業行うなど、できるだけ外の空気を吸う機会を作っている。毎月、外食にも行っており、これも楽しみ事の一つになっている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は鍵をかけておらず、入居者は自由に外出が可能である。入居者が一人で外出する場合には、鈴で知らせる工夫もしており、その際には必要に応じて職員も同行するなどの対応を取っている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害対策としては、緊急マニュアルが作成されている。避難訓練も定期的に行われている。近所の方からも非常時の場合には、協力いただけるよう運営推進会議などで呼びかけを行っている。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は栄養バランスを考え作成されている。入居者の状態に合わせた調理も行われている。水分補給については、水、お茶などで適量確保している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 事業所内は、光が差し込み明るい居住空間である。衛生面にも配慮し、室内を消毒できる加湿器が置かれている。生活空間としては、あらゆる所に写真や手芸品が飾られ、家庭的な温かみのある雰囲気も感じられた。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は入居者が使い慣れた家具、調度品が持ち込まれ、自分の生活空間が確保されている。家族に対しても、それらの持ち込みを推奨している。 | | |

※  は、重点項目。